

# リアリティ・チェック

顧みられないアフガニスタンの保健医療危機



2020年3月

# エグゼクティブ・サマリー

アフガニスタン——40年余りにわたる紛争と混乱が経済とインフラを崩壊させ、何百万もの人びとが人道援助に頼っている。<sup>1</sup> 国境なき医師団 (MSF) が目の当たりにするのも、暴力のまん延、貧困の拡大、脆弱な公衆衛生体制のために、医療を受けることもままならず、高い罹病率と死亡率にさらされ続ける人びとだ。本報告書では、ヘラート州とヘルマンド州の患者、付添人、MSFスタッフからの聞き取りをもとに、医療を求める人びとが直面するさまざまな障壁について記述する。

昨今の国際社会の関心は、米国とタリバンことアフガニスタン・イスラム首長国 (IEA: Islamic Emirate or Afghanistan) との和平協定による影響や、アフガニスタン国内勢力間での協議再開の見通しに向けられているが、現地の実質的な平和につながるか否かはいまだ予断を許さない。武力紛争による民間人死傷者は2009年から2019年の間にほぼ2倍に増え、2018年には最多の死者数を記録した。<sup>2</sup> しかし今後暴力が減少していけば、大いに必要とされている援助も届くだろう。

暴力は人びとの命を直接奪うだけでなく、保健医療へのアクセスを遮断することで、間接的にも命を奪うことは知っておく必要がある。頻発する戦闘と無差別攻撃は民間人の恐怖を呼び起こし、しばしば医療の受診を遅れさせる。アフガニスタン国内のMSF支援先施設では、受診の遅れが生死を分ける現実を常に目の当たりにしている。特に女性と子どもはその影響を受けやすい。

保健医療への攻撃は近年も衰えを見せず、多数の病院が機能の一部停止や、全面的な閉鎖に追い込まれ、その結果、さらに大勢の人が最低限の医療も受けられずにいる。また、武力紛争はポリオやはしかなどの集団予防接種の妨げにもなる。

アフガニスタンでは何百万人もが食べることもままならない。2019年、MSFはヘルマンド州ラシュカルガのブースト病院で3997人の重度栄養失調児を治療した。同州では長年の戦争に加えて、度重なる自然災害の影響で、栄養失調が主な死因の1つとなっている。2018年には、国土の3分の2で干ばつが長引き、農地と家畜が壊滅。続く2019年の鉄砲水も、大勢の住まいと家畜を奪い、経済難に拍車をかけた。アフガニスタンは気候変動の影響を特に受けやすい国の1つで、干ばつや洪水の危険性が高まっている。<sup>3</sup>

貧困の拡大も多くのアフガニスタン人から医療を遠ざけている。このことは、MSFも患者からの話や治療を通じて、日々見聞きしている。患者が語るのは、受診を遅らせたり、躊躇したり、医療費を払うために家財を売り払うしかなかったことなどについてだ。MSFが提供する医療は無償だが、アフガニスタンでは費用回収のために診療費の徴収に踏み切る医療施設が増え、多くの人にとって医療が手の届かないものになっている。

アフガニスタンに安定した未来を築こうと努力している国内外の関係者は、この国の人道状況がここ何年の間、改善はおろか、一部地域ではむしろ悪化していることを認識すべきだ。無償で質の高い保健医療の普及拡大と、足元の緊急医療ニーズへの対応は、喫緊の優先課題であるはずだ。

<sup>1</sup> 2020年のアフガニスタンに関する国連人道問題調整事務所 (OCHA) の『According to the Humanitarian Needs Overview』は、938万人に人道援助が必要としている (2019年は630万人)。

<https://www.humanitarianresponse.info/en/operations/afghanistan/document/afghanistan-humanitarian-needs-overview-2020>

<sup>2</sup> 『2019 Quarterly Report on the Protection of Civilians in Armed Conflict (武力紛争における民間人保護についての2019年季刊報告』、国連アフガニスタン支援ミッション (UNAMA)、2019年10月

<https://unama.unmissions.org/protection-of-civilians-reports>

<sup>3</sup> 『Climate Change Adaptation Afghanistan (気候変動に適応するアフガニスタン)』、国連開発計画 (UNDP)

<https://www.af.undp.org/content/afghanistan/en/home/projects/CCAP-Afghanistan.html>



ヘルマンド州ラシュカルガのブースト病院新生児集中治療室で患者に処置をするMSFスタッフ © Kadir Van Lohuizen/NOOR

## 重要所見のまとめ

(ヘラート州の地域病院での独自調査の結果と、ヘルマンド州ブースト病院で収集した医療データに基づく。報告書本編の「Methodology (記述の方法)」の章を参照)

### ヘラート地域病院

患者と付添人への調査で対象者の41%が、過去2年以内に家族、友人、隣人のいずれかを医療を受けられなかったために亡くしていると回答した。また、89%が、医療の受診を先延ばしにするという危険な方法で経済難に対処していた。さらに、43%が過去2年以内に3回以上、受診を遅らせていた。

### ブースト病院

2019年1～6月にかけて、小児集中治療室への受入後24時間以内に亡くなった子どもの44%は来院が遅く、病状が著しく進行していた。

2018年1～7月に治療を受けた3680人のはしか患者のうち、48%が重い合併症で隔離病棟に入院している。